

梅雨以降の大雨に対する技術対策

【花 き】

- (1) 排水溝を整備し、すみやかな排水を促す。
- (2) 作物が風雨により倒伏した場合は、直ぐに立て直す。
- (3) 冠水・浸水がある場合は軽く中耕することにより、土中に酸素を送り、根に活力を与え、新根の発生を促す。また、土の流亡で根が露出している場合は直ちに土入れを行って保護する。
- (4) 病害を抑えるため、茎葉についた汚泥をよく洗い流す。また、雨が止んだら殺菌剤を散布する。定植後に、冠水や浸水で疫病等が発生した場合には殺菌剤を灌注する。
- (5) 排水の悪いほ場でマルチを行っている場合は、畝の肩までマルチを上げ、水分の蒸発を図り、土壌中の通気性を良くする。
- (6) 降雨量の多い場合は肥料の流亡が大きいため、速効性窒素や葉面散布剤を施用し、草勢の回復を図る。
- (7) 花木類の根が露出しているものは、すぐに土をかけるか、寒冷紗等で覆い、直射日光による乾燥を防ぐ。
- (8) 長雨後の高温および急激な土壌乾燥は、葉焼け等の生理障害発生の原因となるため、遮光、かん水、敷わら、草刈り等を励行する。
- (9) キク等の電照栽培を行っている場合は、停電の恐れがあるため、タイマー等の確認を行う。